



---

# 環境省とJリーグの連携について

---

令和7年12月

環境省 Jリーグ連携チーム



## 環境省とJリーグの連携協定締結（令和3年6月）

- 環境省は全国に60のクラブがあり地域に大きな影響力を持つJリーグとも連携して、環境政策を展開。Jリーグは地域に根ざしたSDGsの取組を、環境省の知見も活用して一層推進



### ■ 連携協定の締結式

2021年6月28日（月）、小泉 進次郎 環境大臣（当時）と村井 満 Jリーグチェアマン（当時）が、連携協定に署名。

### 協定に基づいて推進するアクション

1. SDGsの観点での地域の活力を最大限発揮するための環境整備と情報発信・コミュニケーション
2. 脱炭素社会、循環経済、分散型社会への移行を進めるための知見の共有や普及活動・行動変容を促す活動での協力ホームタウンの地域資源を最大限活かした地産地消の取組の推進
3. 環境省とJリーグが持つ様々なチャンネルを共有する連携の強化
4. 共通のゴールを実現するための更なるアクションを展開するための継続的な協議

# シャレン活動実績（2023年） ※Jリーグ資料より

## 60クラブ全体集計

年間活動回数 **30,614**回  
 トップ選手の活動人数 **8,009**人  
 うちシャレン活動回数 **3,778**回

### 活動者

10,858回	監督・コーチングスタッフ
9,696回	クラブ役員・アンバサダー
3,223回	トップ選手
905回	代表(会長・社長等)
683回	アカデミー選手
347回	女子選手
10,211回	その他

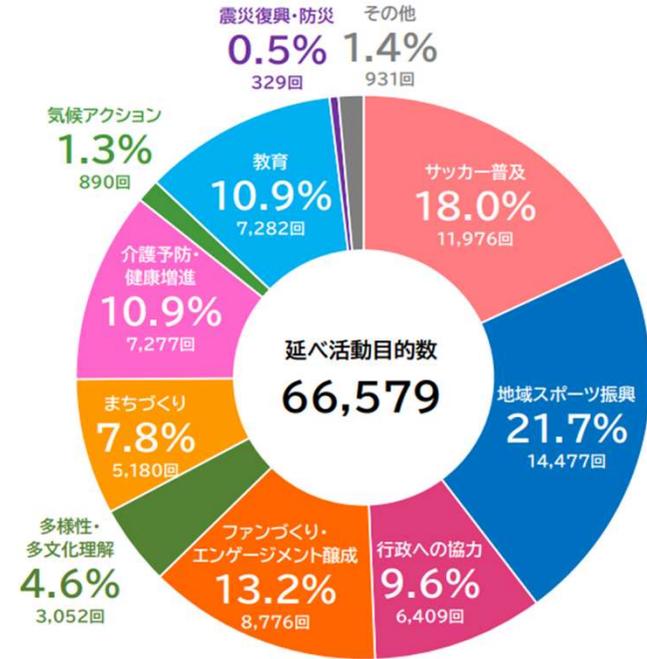
### 協働者

11,994回	行政
8,703回	企業
6,922回	教育機関
5,197回	NPO等の非営利組織
1,483回	自治会や商店街等の地域組織
65回	サポーター/ボランティア
4,723回	その他

※「活動者」および「協働者」は、1つの活動につき複数選択となるため、延べ活動回数が表示されています。

### 活動目的の構成

※各クラブが実施したホームタウン活動を、クラブからの報告に基づいて集計しています。  
 ※「活動目的」は、1つの活動につき複数選択となるため、延べ活動回数が表示されています。



## シャレンの取組～多様なプレイヤーとの連携～ ※JリーグHPより引用



小学生2人をリーダーにした地球の環境を守るためのプロジェクト。  
Jリーグ全58クラブ（当時）に環境保全活動に関するアンケート調査を行った茨城県内在住の小学校6年生をプロジェクトリーダーに置き、その小学生が地球環境保全のため、地域の方々と水戸ホーリーホックと協働して大豆ミートバーガーを10月23日（日）のJリーグ最終戦ホームゲームにて販売し、地域の方々に対し環境保全への意識付けを働きかけたプロジェクトとなった。

協働者企業、学生、ファン・サポーター、スタジアム、選手  
協働者名：株式会社トゥインクルデリバリーサービス、守谷市内小学生

## ○選手の汗と情熱がしみこんだ堆肥「芝～レ！」カターレ食農プロジェクト～紅はるか～



「この街に住んでいてよかった」と実感していただけるような街づくりに向けて「Kataller the Utopia～RISOUのまちを創造する～」を掲げてSDGs活動を推進。  
2021年より練習場の刈芝から堆肥「芝～レ！」を製作。翌年より芝～レ！を使用した土壌で未来を担う子供たちにサツマイモの植え付けから収穫、実食、販売までを体験してもらう食農プロジェクトがスタートしのべ200名が参加しました。  
循環型社会を目指し地域の食と農業を繋げる食農教育のみならず、脱炭素問題など多様な社会課題にもアクション

協働者企業、住民、ファン・サポーター、選手、農家  
協働者名：株式会社ファニーファームベジタブル、株式会社サカエグリーン、北陸電力株式会社、大松青果株式会社、丸紅株式会社、サクラパックス株式会社、十全化学株式会社、イセ食品株式会社、株式会社エススリーブブランディング

# Jリーグによる気候アクションの動き

■ 2023年シーズンの全試合（約1,200試合）について証書等を取得し、使用電力を実質再エネ化

■ 2024シーズンから、気候アクションの本格化。

・ロードマップやハンドブックの策定

・元日本代表選手 3名(内田篤人氏、小野伸二氏、中村憲剛氏)による普及啓発動画の作成など

<https://www.jleague.jp/climateaction/>

・スマイルフットボールツアー開催

■ スポーツポジティブリーグ（SPL）への参画

■ 各クラブの具体的な動きへ深化

**Jリーグ気候アクションのロードマップ**

2024-25	2027	2030
意識が変わる	行動が変わる	仕組みが変わる
<p>“気候変動とサッカーには深い関係があり、サッカーファミリーはその解決の力になれる。”</p> <p>温室効果ガス 「Scope1,2」排出量と削減量を可視化</p> <p>目指す状態 クラブがハブとなって地域資源(人・文化・自然)を活かしながら、再生エネが広がり、自然環境保全・再生が進みはじめている(10クラブ程度)</p> <p>サッカーファミリーとともに サッカーファミリーが学ぶ場の深化・拡大</p>	<p>“地球とサッカーを守るため、カーボンニュートラルを推進した選択と行動がサッカーファミリーのスタンダードになる。”</p> <p>温室効果ガス 「Scope1,2,3」排出量と削減量を可視化</p> <p>目指す状態 クラブがハブとなって地域資源(人・文化・自然)を活かしながら、再生エネが広がり、自然環境保全・再生が進みはじめている(30クラブ程度)</p> <p>サッカーファミリーとともに サッカーファミリー、地域のステークホルダーが連携を深め、行動・実践が加速する</p>	<p>“ホームタウン全てで、カーボンニュートラルと地域活性化を両立するための社会システム実現が進む。”</p> <p>温室効果ガス CO2排出量初年度対比50%削減</p> <p>目指す状態 クラブがハブとなって地域資源(人・文化・自然)を活かしながら、再生エネが広がり、自然環境保全・再生が進みはじめている(60クラブ程度)</p> <p>サッカーファミリーとともに 様々なステークホルダーとともに、便利で環境に優しい仕組みづくりに向けて前進する</p>

※ Scope1: 燃焼による温室効果ガス排出、Scope2: 電力・熱供給による温室効果ガス排出、Scope3: 事業活動による温室効果ガス排出

**Jリーグ 気候アクション ハンドブック**

未来の地球に、いいパスを  
この活動の主体は、あなたです。  
さあ、Jリーグと一緒に考え、未来を変えていきましょう。



# Jリーグや各クラブの取り組み事例（環境省との共同事業を含む）



ルヴァンカップ決勝でのフードドライブ



レノファ山口・中四国事務所等の連携協定



松本山雅FCと中部山岳国立公園  
パートナーシップ締結



ゴミ拾い活動

# リーグや各クラブの取り組み事例（環境省との共同事業を含む）



水戸ホーリーホック×関東事務所  
地域循環共生圏P F事業



ガイナレ鳥取 大山隠岐国立公園での公園遊び



本日のアジェンダ  
自然愛護・野鳥保護活動  
(ラブ・バード・ラリー)

再生。福島

東日本大震災からの復興・再生  
に向けた環境省の取組

2月16日(水)  
リーグとの勉強会

環境省 川又 孝太郎

クラブとの勉強会開催



水戸ホーリーホックGXプロジェクト記者  
会見（ソーラーシェアの実施）

## Jリーグや各クラブの取り組み事例（環境省との共同事業を含む）



川崎フロターレ・京都パープルサンガ  
モバイルバッテリー回収のモデル事業



RB大宮アルディージャ・デコ活（脱炭素に関する国民運動）



レノファ山口・湯田温泉park 共創プロジェクトでの協力



各メディアでの発信

<https://www.env.go.jp/guide/info/ecojin/feature1/20240110.html>

# これまでに実施してきた共創事例 水戸ホーリーホック

地域の主要産業である農業をクラブでも実施

発端は環境省×Jリーグ連携をフックとした意見交換

農業に関して地域のハブとなって解決したい

地域循環共生圏事業における地域ステークホルダーとのWS

地域循環共生圏事業における社内でのWS

地域貢献をしながらも事業として実施することを本格検討へ



WSの様子

事務所の直接的支援はここまで。これ以降は壁打ち相手として相談にのる

事業化に向けた社内での検討→農業×脱炭素でソーラーシェアリングを検討

事業者や助成金（Jリーグ本体）等を検討

選手やサポーターを巻き込んで発表→2025年度より運用開始



